

# PSIM CONSORTIUM

Professional Skills Instruction Materials  
CONSORTIUM

法実務技能教育教材研究開発コンソーシアム



## PSIMコンソーシアムの概要

法実務技能教育教材研究開発コンソーシアム(通称 PSIMコンソーシアム)は法科大学院間で模擬裁判やロイヤリングなどの法実務技能教育の教材を共同で開発し利用するとともに、教育人材の養成プログラムや教育方法論の開発を推進するために、全国から多数の法科大学院が参加している組織です。近年では、韓国および中国など国外の法科大学院もオブザーバーとして参加しています。

### 結成の経緯

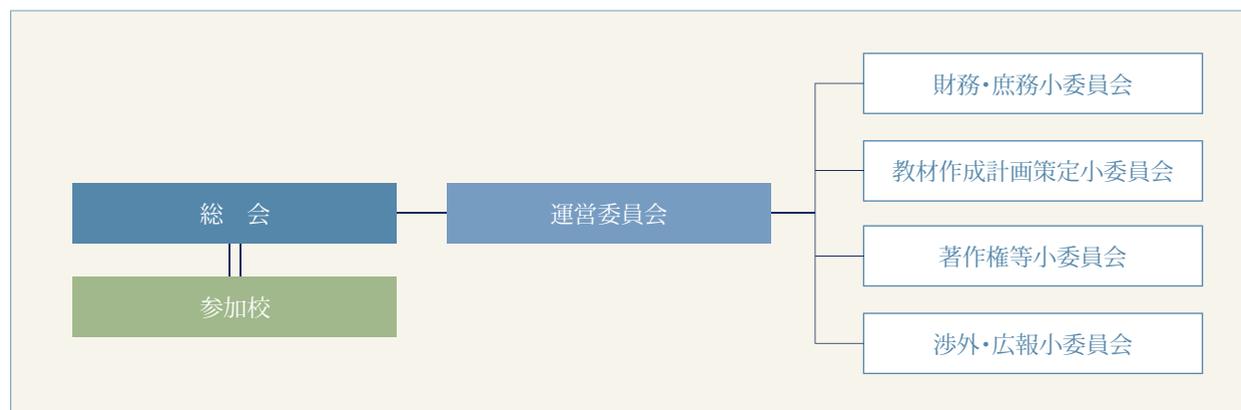
2004年に法科大学院(いわゆるロースクール)が創設され、従来の法学教育にはなかった面接、尋問、交渉などの専門技能に関する新たな実務技能科目が登場しました。しかし、これらは、従来の法学部における教育ではほとんど行われてこなかった未開の領域であるために、教育教材、教育方法論、教育人材の全ての面において蓄積がありませんでした。そこで、名古屋大学が主幹校となって、文部科学省の支援の下で「実務技能教育教材共同開発プロジェクト」(通称、PSIMプロジェクト)を立ち上げ、2006年度まで活動してきました。このプロジェクトの成果を踏まえて、2007年度からは各大学間の協定による組織体に形を変えて、新たに「PSIMコンソーシアム」を組織し、活動を継続することとしました。

### 目的

PSIMコンソーシアムでは、インターネット上で参加校を結ぶネットワークであるPSIM Webを形成し、以下の活動を通じて理論と実務の架け橋となる教育を実践し、コミュニケーション能力のある人材の養成を支援しています。

- ① 模擬裁判やロイヤリングなどの実務技能教育教材の開発・提供
- ② 実務技能教育の教育方法論の開発
- ③ 実務技能教育の教育者養成プログラムの開発

### 組織図





## 展開

PSIMコンソーシアムは参加校の経験等の集約や連携した活動のみならず、海外諸機関との学術交流に努めてきました。アメリカ合衆国のNITAとは学術交流協定を結び、またオブザーバー校として海外5校の参加を得ています。その他にも、ウィスコンシン州立大学、UCLA、ハワイ大学、ペパーダイン大学や、オーストリアのリンツ大学、シンガポール大学などと交流によって、実務技能教育のあり方や教材作成について相互の情報交換を行っています。



- ・名古屋大学大学院法学研究科（主幹校）
- ・愛知大学大学院法務研究科
- ・愛知学院大学大学院法務研究科
- ・大阪市立大学大学院法学研究科
- ・岡山大学大学院法務研究科
- ・香川大学大学院 香川大学・愛媛大学  
連合法務研究科
- ・鹿児島大学大学院司法政策研究科
- ・金沢大学大学院法務研究科
- ・関西学院大学大学院司法研究科
- ・九州大学大学院法務学府
- ・京都産業大学大学院法務研究科
- ・熊本大学大学院法曹養成研究科
- ・國學院大學大学院法務研究科
- ・静岡大学大学院法務研究科
- ・上智大学大学院法学研究科
- ・信州大学大学院法曹法務研究科
- ・専修大学大学院法務研究科
- ・中京大学大学院法務研究科
- ・桐蔭横浜大学大学院法務研究科
- ・東海大学大学院実務法学研究科
- ・東京大学大学院法学政治学研究科
- ・東北大学大学院法学研究科
- ・獨協大学大学院法務研究科
- ・南山大学大学院法務研究科
- ・新潟大学大学院実務法学研究科
- ・日本大学大学院法務研究科
- ・広島大学大学院法務研究科
- ・北海学園大学大学院法務研究科
- ・琉球大学大学院法務研究科
- ・龍谷大学大学院法務研究科
- ・早稲田大学大学院法務研究科

- ・日弁連・弁護士会等
- ・NPO法人法教育支援センター

- Teaching Methodの共有
- ・NITA（全米法廷技術研修所）
  - ・ACT of Communication



### PSIM Web

教育実践ノウハウの集中  
E-learningとして活用  
実務技能の集中  
Web経由の情報共有

#### オブザーバー参加



中国

- ・中国政法大学



韓国

- ・仁荷大学校
- ・慶熙大学校
- ・ソウル国立大学校
- ・西江大学校

#### 交流・情報交換



アメリカ

- ・ウィスコンシン州立大学
- ・UCLA
- ・ハワイ大学
- ・ペパーダイン大学



オーストリア

- ・リンツ大学



シンガポール

- ・シンガポール大学

## 主な活動

### 総会・運営委員会

PSIMコンソーシアムでは、総会を年1回、運営委員会を年2回開催し、コンソーシアムの運営事項についての協議を行っています。



### PSIMセミナー

教材作成、教育方法論、教育人材養成に関して、全国の法科大学院向けセミナー（法実務技能教育支援セミナー：通称「PSIMセミナー」）を開催しています。また、欧米、アジアの法廷技術の研究機関等への研究者の派遣および同機関からの研究者の招聘を行い、相互の情報交換に努めています。

#### ▶ 講演会・シンポジウム

国内外から講師を招き先進的な教育実践の経験等を広く紹介し、参加校の間で共有しています。

##### 開催例

- 「岡山大法科大学院弁護士研修センターの意義および課題」（2014年11月）
- 「法曹養成過程における司法研修所と法科大学院の役割分担」（2013年11月）
- 「アメリカにおける少年司法制度～過去からの視点と未来への展望～」(2013年6月)
- 「刑事弁護研修における教材の重要性と課題 ～裁判員裁判弁護技術研究室での取り組み」（2012年11月）
- 「法テラス本部における新人弁護士養成の現状と課題 ～業務支援室での取り組み」（2012年11月）
- 「中国の法科大学院の現状と問題について(仮)」（2011年11月）
- 「ロールプレイ授業の教材作成と授業方法のポイント」（2010年11月）
- 「裁判員時代の尋問技術教育 ―法科大学院の挑戦(シンポジウム)」（2009年9月）





## ▶ NITAセミナー

学術交流協定を結んでいるNITA(National Institute for Trial Advocacy, USA)から講師を招き、法実務研修セミナー(ワークショップ)を各地で開催しています。参加者はこうした参加型研修から多くを学んでいます。また、教員は指導方法についての多くのヒントを得ています。

### 参加者の感想



尋問は難しく、正解はない。しかし、鮮やかで効果的な尋問は確実に存在するし、また、自己の研鑽次第でいくらでも磨きうる技術である。これが、NITA法廷弁護研修プログラム体験セミナーを受けて、最も実感したことです。法科大学院以外の法曹関係者と共に関心のある課題に取り組み、さらにアドバイスまで頂く機会は、尋問の難しさにばかり気を取られていた私にとって、尋問のクリエイティビティを教えてくれるものでした。本セミナーは、この受講経験を実際の尋問に役立てるために、いっそう目の前の勉強を頑張ろうというモチベーションを与えてくれました。(法科大学院生)



今回のプログラムでは、「良い尋問とはどのようなものか」という疑問に対する大きなヒントを講師の先生方が鮮やかに示してくださいました。その上で、すぐにこれを実践してみて、先生方からの的確なコメントをいただき、修正する機会を与えていただきました。このように、学んだ知識をすぐに活用してみることで、耳で聞いたに過ぎなかった「良い尋問」と自分の尋問とのずれを身をもって感じ、自分が実務に出た際にどうしていくべきかについてのイメージを持つことができました。また先生方は、失敗を恐れずトライする姿勢をとって評価して下さるため、参加者全員がどんどん積極的になっていき、非常に刺激的な時間を過ごさせていただきました。(司法修習生)



本セミナーでは、あらかじめ配布された教材の事例に基づき、検察官側と弁護側に別れ、最終弁論及び主尋問、反対尋問の実践を行いました。私の実践に対し、講師の先生からは、「おばあちゃんでもわかるように語ること」「法律用語を多用しないこと」とのアドバイスをいただき、自分ではわかりやすく話しているつもりだったのに、まだ不十分なことに気づきました。客観的に自分を見ていただく貴重な機会となりました。また、参加された他の弁護士のスキルの高さ、修習生の方々の積極的に参加する姿勢はすばらしく、大変良い刺激となりました。何よりも、研修全体が、失敗を否定しない、ユーモラスで温かい雰囲気の中で行われたことで、受講生が臆せず発言することができ、互いの切磋琢磨につながったと思います。このような温かい雰囲気での的確な指導をして下さる講師の先生方のスキルは大変素晴らしいと思いました。法科大学院の学生のみならず、経験を積んだ多くの弁護士にも、このような素晴らしい研修に参加してほしいと思いました。(弁護士)



## 実践的教材の作成

PSIMコンソーシアムでは、参加各校の協力により、これまでに多数の法実務技能教育教材を作成して参りました。これら教材を用いた授業の映像記録などを蓄積するとともに、授業の進行を解説したティーチング・マニュアル等についても作成しています。

教材数	
民事模擬裁判関連	34件
刑事模擬裁判関連	28件
民事ロイヤリング関連	47件
刑事ロイヤリング関連	1件
映像教材(DVD等)	11件

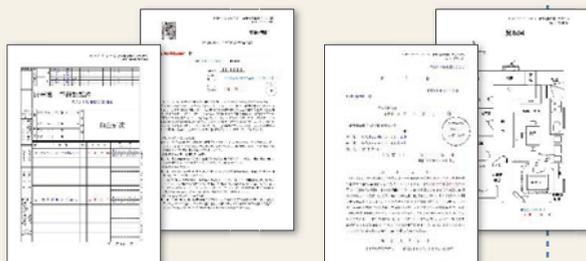
(2015年2月現在、数字はいずれも修正・改訂作業中のもの、ならびに作成中のものを含む)



このほか、上記教材を用いた授業の映像記録などを蓄積するとともに、授業の進行を解説したティーチング・マニュアル等についても作成しています。

### <民事模擬裁判シナリオの構成例>

- ◆シナリオ使用マニュアル
- ◆事情聴取書(当事者の事情)
- ◆訴訟記録
  - ◇第1分類(表紙、調書類)
  - ◇第2分類
    - ・主張書面(訴状、答弁書、準備書面)
    - ・書証/証人等目録
    - ・証拠説明書
    - ・甲/乙号証
    - ・証人等調書
    - ・証拠申出書
  - ◇第3分類(訴訟委任状、送達報告書等)
- ◆参考判決



### <刑事模擬裁判シナリオの構成例>

- ◆シナリオ使用マニュアル
- ◆捜査書類
  - 送致書、緊急逮捕手続書、領置調書、
  - 実況見分調書、検証調書、見取図、
  - 鑑定書、捜査報告書、供述調書 等
- ◆公判記録
  - ◇目録(押収物総目録、訴訟費用明細等)
  - ◇第1分類
    - 起訴状、証明予定事実記載書、
    - 予定主張記載書面、求釈明書、
    - 公判前整理手続調書、公判調書 等
  - ◇第2分類
    - 証拠等関係カード、被告人供述調書、
    - 証人尋問調書、宣誓書 等
  - ◇第3分類(逮捕状、勾留状等)
  - ◇第4分類(国選弁護人選任命令等)
  - ◇第5分類(裁判員等選任手続記録等)



## ▶ 教材利用者の声



昨年度、初めて、PSIMの教材を使用したのが、使用したのは、教材番号24番の請負代金請求事件である。

この教材を選択したことの理由は、主として2点である。第1は、証人役の調達の都合及び集中証拠調べの時間の余裕との都合から、本人及び証人の合計数が3人と適当なことである。なお、本学では、本人役、証人役は、その年の司法試験合格者の方をお願いしている。第2点としては、陳述書とは別に、実際の本人尋問調書及び証人尋問調書があり、本人役、証人役にはそれらを見せ、聞かれれば答えてもよいが、積極的には内容を告げてはならないこととして、原告代理人役、被告代理人役から事情聴取させるという、実際の証人テストに近い形をとることができることである。

本学では、模擬裁判においては、原告代理人役、被告代理人役にそれぞれに渡す資料は、厳密に区別しており、実際の裁判に近い形で模擬裁判を行っているため、第2の点は、本学の進め方に大いに役に立った。

他方、論点は、契約の成立の有無という一発論点であるので、やや面白味というかダイナミックさに欠ける。また、当事者や証人が当然知っていると思われるような細かな事情を、もっと入れておいてくれば、より迫真性を持った模擬裁判になったであろうと思うが、これらは贅沢な望みであろうか。

大阪市立大学大学院法学研究科法曹養成専攻 教授・弁護士 原田 裕彦

(PSIM News 第14号より抜粋)



過去の授業では日弁連からの提供教材と担当教官(主として裁判所からの派遣教官)が作成した教材を主に利用していたが2011年の授業においてはPSIMから提供頂いた教材で模擬裁判の授業を開講している。

この事案を選んだのは不法行為事案の場合は事実認定が主たる争点となり争点が簡明であることに理由がある。2011年は民事模擬裁判が2年後期に移行して初めての年ということもありどの程度の事案を扱えるか不安もあったことから授業効果も考えて上記事案を採用したという背景もある。

授業では滞りなく4回の公判期日で争点整理しており学生には取り扱い易い教材であった様に思われる。教える側としてはもう少し学生を悩ます争点を入れておけば良かったという思いもあるが、実体法と手続法の体感という本授業の目標に照らして考えれば、本事案の様に学生が若干の余裕をもって取り扱える程度の事案で良かったというのが現在の心境である。数多くの事案を取り扱うことにより最適な教材のレベルを指導教官としても体感しておく必要があると感じているところであり、今回PSIMの教材を利用させて頂いたことは大変貴重な経験となっている。

琉球大学法科大学院 准教授・弁護士 藤田 雄士

(PSIM News 第13号より抜粋)

## 先進的ツールの開発

### STICS | SStream Indexing and Commenting System

「STICS」は収録した画像を専用のサーバーに登録し、それをインターネット経由でストリーミング配信するシステムで、映像収録したものをインターネット上で限定されたメンバーに公開し共有することが最大の長特です。「見る画面」では、映像の閲覧のほか、任意の場面にコメントを付与することができます。また、「読む画面」では、複数の参加者のコメントを一覧で表示したり、特定の個人やグループのコメントだけをピックアップして表示することもできます。また、「読む画面」でコメントをクリックすることによって、当該コメントが付与された場面から「見る画面」で映像が再生されるので、効率的な振り返りが可能となっています。

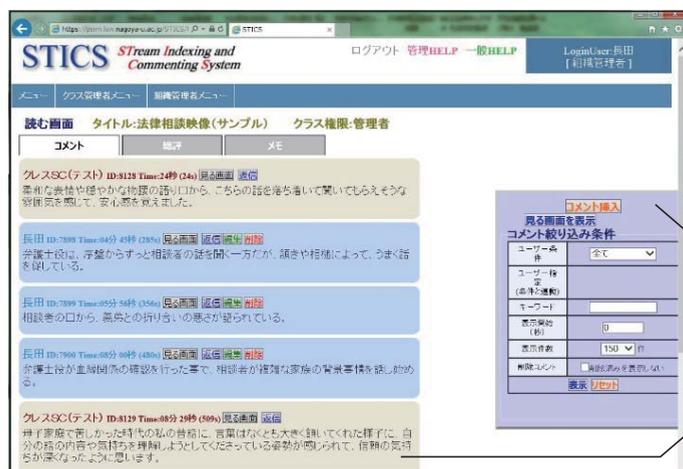
#### 【映像表示欄】

専用のサーバにアップロードされた映像を、ストリーミング配信で視聴することができます。



#### 【コメント表示欄】

場面毎にコメントを付与ことができ、掲示板形式で意見交換を行うことも可能です。



#### 【コメント一覧(読む画面)】

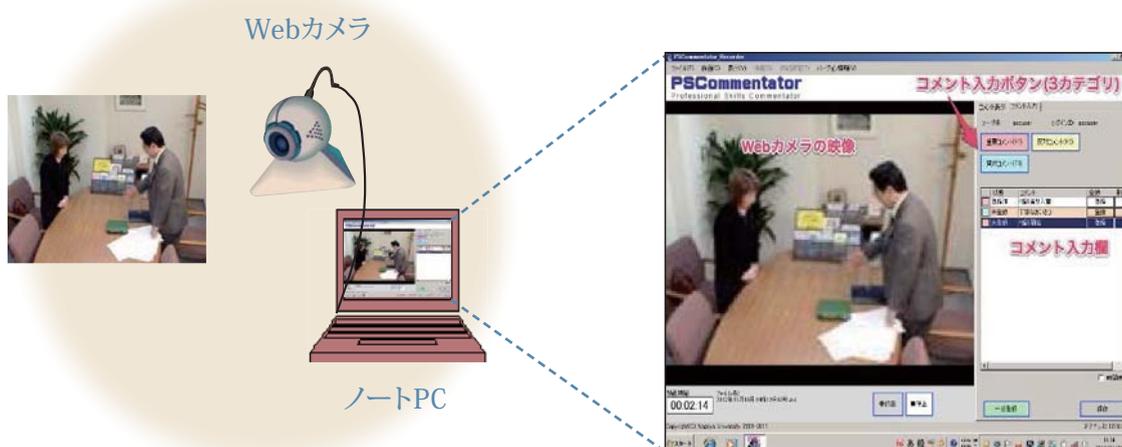
映像ごとに付与されたコメントを一覧で表示したり、一部のユーザのコメントだけを抜き出して確認することができます。また、コメント内のボタンをクリックすることで、該当場面から映像を視聴することもできます。

※ ノートPCを簡易サーバとしてLAN環境下で運用する「STICS-mini」もあります。



## PSC | Professional Skills Commentator

「PSC」は、模擬裁判や模擬相談などのシミュレーション場面を録画することで、コメント付きの映像教材を手軽に作成・提示することができるソフトウェアです。「ノートPC」と「Webカメラ」があれば、映像の収録に加えて、「STICS」の基本的な機能(映像の視聴・場面毎のコメント付与・該当場面からの映像再生)を実現できます。



## db-MASC | data base for Materials of Scenario

「db-MASC」は、模擬裁判や模擬相談等のシナリオ素材の文書教材共有のためのシステムです。利用者(登録された教員)は、IDとパスワードを用いてログインし、教材内容の紹介画面において、各教材の概要を確認した後、PDF化された文書教材をダウンロードして内容を閲覧することができます。



教材資料(PDF形式)をダウンロードして、内容を閲覧することができます。



出版・印刷物等



「裁判員への説得技法  
法廷で人の心を動かす心理学」  
(2014年/北大路書房)  
ISBN:978-4-7628-2850-0



「弁護士のための  
法廷テクノロジー入門」  
(2011年/慈学社)  
ISBN:978-4-903425-69-6



「現代アメリカ法廷技法」  
(2009年/慈学社)  
ISBN:978-4-903425-40-5



目撃証人への反対尋問  
証言心理学からのアプローチ  
(2007年/北大路書房)  
ISBN:978-4-7628-2577-4



「弁護士が  
俳優から学べることは？」  
(Act of Communication: DVD  
日本語字幕/ワークブック翻訳)



「民事模擬裁判ティーチングマニュアル  
(初級編)【改訂版】」  
(2008年/慈学社)  
ISBN:978-4-903425-34-4



「刑事模擬裁判  
ティーチングマニュアル」  
(2008年)



「民事ロイヤリング  
ティーチング・マニュアル」  
(2008年)



「刑事ロイヤリング  
ティーチング・マニュアル」  
(2008年)

「PSIMセミナー」などの講演会の記録も参加大学の紀要にて出版しています。

沿革

2007年度

9月 設立総会(名古屋大学)  
PSIMコンソーシアム設立

2008年度

9月 第1回PSIMセミナー(名古屋大学)  
11月 第2回総会(名古屋大学)  
2月 第2回PSIMセミナー(上智大学)  
NITAと学術交流協定に調印

2009年度

6月 第3回PSIMセミナー(早稲田大学)  
9月 第4回PSIMセミナー(ラフォーレ東京)  
11月 第3回総会(名古屋大学)  
11月 第5回PSIMセミナー(名古屋大学)  
11月 第6回PSIMセミナー(岡山大学)

2010年度

7月 第7回PSIMセミナー(名古屋大学)  
10月 第8回PSIMセミナー(獨協大学)  
11月 第4回総会(KKRホテル名古屋)  
11月 第9回PSIMセミナー(KKRホテル名古屋)  
NITAとの学術交流協定更新



## ▶ PSIM News

PSIMコンソーシアムでは、年に2回、活動の記録等を掲載した法実務技能教育教材研究開発コンソーシアムニューズレター(通称:PSIM News)を発行しています。PSIM Newsは、PSIMコンソーシアムのホームページからダウンロード可能です。

(<http://www.law.nagoya-u.ac.jp/~psimconsortium/news.html>)



### 2011年度

- 10月 第10回・第11回PSIMセミナー(南山学園研修センター)
- 11月 第5回総会(名古屋大学)
- 11月 第12回PSIMセミナー(名古屋大学)

### 2012年度

- 6月 第13回PSIMセミナー(京都産業大学)
  - 11月 第6回総会(中京大学)
  - 11月 第14回PSIMセミナー(中京大学)
- NITTAとの学術交流協定更新**

### 2013年度

- 6月 第15回PSIMセミナー(沖縄県弁護士会)
- 6月 第16回PSIMセミナー(沖縄県市町村自治会館)
- 11月 第7回総会(名古屋大学)
- 11月 第17回PSIMセミナー(名古屋大学)

### 2014年度

- 6月 第18回・第19回PSIMセミナー(愛媛大学)
  - 10月 第8回総会(愛知学院大学)
  - 10月 第20回PSIMセミナー(愛知学院大学)
- NITTAとの学術交流協定更新**



**PSIM  
CONSORTIUM**  
Professional Skills Instruction Materials  
CONSORTIUM